

まちづくりの
戦略

リニア駅前の特別な価値を最大化させる特色あるまちづくりを進め、本市や圏域に開業効果を最大限波及させるとともに、リニア駅周辺の地域課題の解決を図る。

リニア駅前のまちづくりの方向性（案）

① “近未来の産業、暮らし”を社会実装するまち

- ゼロベースで開発できる強みを活かし、産業や暮らしを豊かにする様々な最先端技術や知見の社会実験・実装に取り組み、近未来社会をけん引する先導的エリアづくりを目指す。
- これらの社会実装を通じて、暮らしの面では、一人ひとりが健康で楽しく過ごせる環境を実現するとともに、県内の既存産業の振興や新産業・近未来産業を育成し、本市や本圏域の新たな成長のエンジンとなることを目指す。
- 特に環境・エネルギー分野では、水素エネルギーや持続可能エネルギーなど次世代エネルギーを積極的に導入し、2050年のカーボンニュートラルの実現や、本県の新産業育成に取り組む。

② 誰もが目的地に“シームレス”に移動できるまち

- リニア駅北側の交通結節機能整備に加え、様々な次世代モビリティやMaaS等の近未来のサービスを組み合わせ、市内、県内など様々な目的地にシームレスに移動できる環境の実現を目指す。

③ 平常時も災害時も活躍する“フェーズフリー”なまち

- 平常時は賑わいや交流の促進、災害時には交通結節点の特徴を活かして駅利用者や地域住民への対応等、近未来（近い将来起こりうる）の災害や防災のあり方を見据えながら、日常時も災害時もその役割を十分発揮する空間整備を検討する。
- フェーズフリー：防災対策だけを目的とするのではなく、日常時に十分利用される空間整備。



官民連携でまちづくりに取り組む

■リニア駅前で“近未来社会をけん引する先導的エリア”のイメージ



高質でゆとりある環境に配慮した空間



フェーズフリーの空間



新しい働き方の舞台となる空間



次世代モビリティ、自動運転等が走る空間



身近な農と食を感じる賑わいのある空間



次世代モビリティ、自動運転等が走る空間



次世代モビリティ、自動運転等が走る空間

